

地域経済貢献へ

木質ペレットの利用と熱電併給

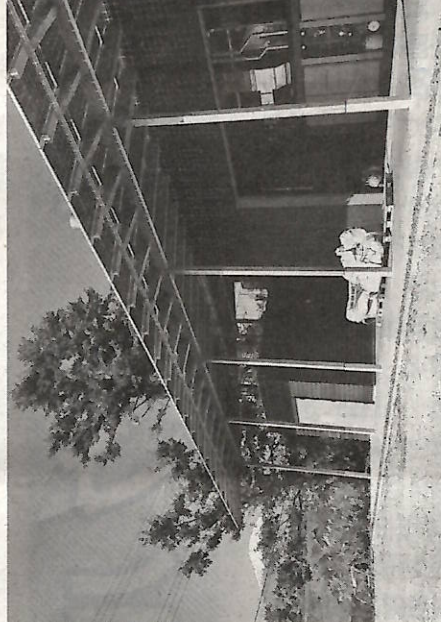
木質バイオマスと言えばチップとされることも多いが、ペレットの利用も活発に行われている。近年海外産の木質ペレットの日本での消費が急増しているが、日本産ペレット利用したバイオマス発電や熱供給についても、さまざまな事業者が取り組んでいる。特に近年しわりと増えてきている欧州製の小規模熱電併給装置での利用もあり、より一般的なものとして流通されるようになってきた。

小山町 三洋貿易

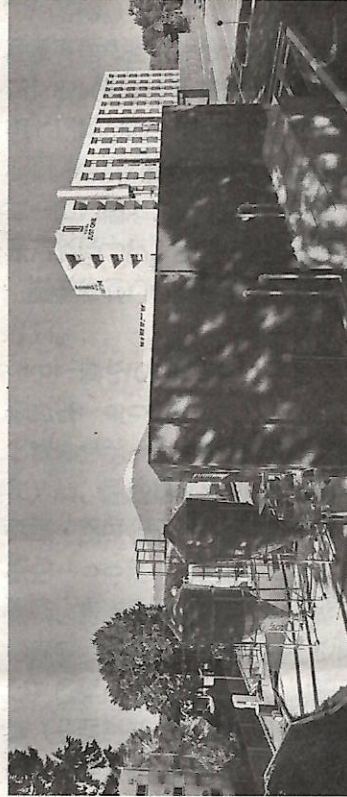
ペレット利用し熱電併給

地域産材を有効活用

静岡県で富士山多望 邸発電所」は稼働して
む小山町に「森の金太郎 いる。使用しているの



屋根には太陽光パネルが設置されている
「森の金太郎発電所」



ホテルの敷地に設置し 熱電併給を行う

インタビュー

木質ペレットは搬送性・保存性が良いことから、小規模のストーブから大規模

カ産のものが大半を占める。一方で国産ペレットの多くは熱供給の対象となっている。自治体などが運営に携わっている

—近年欧州製の小規模熱電併給装置でのペレットの使用も

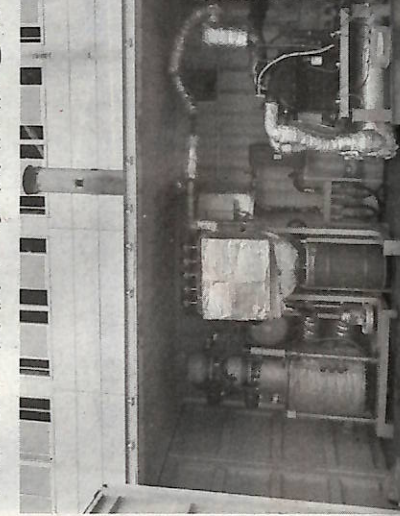
ペレットの利用は地産地消の促進になるとい

がある。木質ペレットの新たな規格が設定された

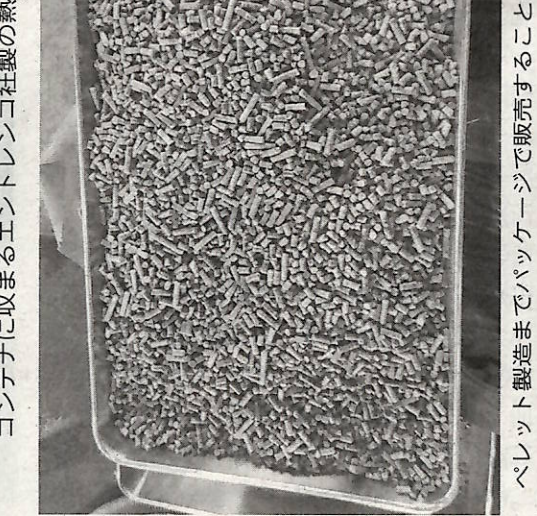
許容値外のペレットが流通する等、燃焼機

はブルハルト社の木質バイオマス熱電併給装置である。電気出力は160キロワットで、熱出力は260キロワットとなる。電気はFIT(固定価格買取制度)により売電しており、熱は

生じた間伐材を有効活用している。屋根には50キロワットの太陽光発電を設置しており、建屋も町内産の木材を利用している。現在は小山町



コンテナに収まるエントレニコ社製の熱電併給装置



ペレット製造までパッケージングを計画している

ジャパンフォレストパワー

熱電併給装置のテストプラント設置

木質ペレット製造とパッケージ化

ジャパンフォレストパワー(本社:東京・千代田)は6月、千葉県八街市の八街工場に、エントレニコ社製の熱電併給装置を設置した。同製品は木質ペレットを燃料とするガス化熱電併給装置。ダブルフラット方式で発電出力は50キロワット、熱出力は120キロワット、総合効率は85%となる。電力はグループ会社を通じてFITで売電する

とともに熱については、今後、周辺地域での農業用の利用などを検討している。同社ではもともと活性炭の製造を手掛けており、需要に応じてさまざまな規格の製品を製造している。さらに事業者としてSDGsで定める17の目標に貢献できるように「地産地消」の取り組みを原点とした、脱炭素生活に向けて「再生可能エネ

ルギーの創造」に取り組むことを開始。研究開発を進める中で、時には自然環境に優しく、有事には必要な電力を独自で賄える木質ペレットを用いた小規模分散型バイオマス発電に着目したという。八街工場では、現在北関東産の木材を原料にした木質ペレットを製造しており、自社の発電施設で使用している。将来は地元産木材も原料として使用することを計画している。また同社で使用しているエントレニコ社製の小規模熱電併給装置では、使用する木質ペ

レットの品質規格はEN Plus A1と開発を進める中で、平